

教育研究業績書

氏名 松長潤慶

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当 頁数
(著書) 1 『インドネシアの密 教』	単著	平成8年3月	博士論文	修士論文以降に新出した文献・図像資料を新たに考察に加え、インド亜大陸に残される密教遺跡・遺品を踏まえた上で、7世紀から14世紀に流布したと考えられるインドネシアの密教の性格を図像学的立場を中心に総合的に考察した。これまでほとんど研究者が手をつけていなかった海上ルートの密教流布形態に関して、多大なる成果をあげることが出来た。		366頁
(著書) 2 『密教大系』第二巻中 国密教 「インドネシアの初期 仏教—漢訳資料を中心 として—」	共著	平成6年7月	法蔵館	『密教学報』30号に掲載した論文に再度考察を加え、中国正史や高僧伝等の史実に基づき、インドネシア諸島に流布した仏教の性格に考察を加え、これまであまり研究対象とされず、明確にされてなかった東南アジアの仏教事情が明らかになり、この地域の仏教研究に大きく寄与した。この考察により、その後密教が流布した時に、仏教が密教に与えた影響に関しても明らかとなった。	宮坂有勝・松長 有慶・頼富本宏	9頁
(著書) ③ 『聖なるものの形と 場』「インドネシア ジャワ島に現存する密 教遺跡の聖なる場」	共著	平成11年5月	春秋社	インドネシアへの密教の伝来、密教遺跡と遺品、密教文献、ジャワ島に流布した密教の性格の4つの項目に分け、ジャワ島における密教の性格についてまとめた。これらの考察により、インドネシアジャワ島には弘法大師空海が受法した密教と同性質の密教が流布し、「金胎両部」の思想の源泉が解明できた。	頼富本宏	12頁
(著書) 4 『インド密教』「ジャ ワの密教」	共著	平成16年3月	法蔵館	ジャワ島には金剛界系および胎藏系の尊像配置を含む密教遺跡が多数確認できる。それらの中でジャワ島中部に現存するチャンディ・ボロブドゥールとチャンディ・ムンドゥーの尊像配置および建築プランを取り上げ、「金胎両部」の教理体系の可能性について考察した。また、空海の請来した日本密教が、ジャワで盛隆した密教と極めて高い類似性を持つことが確認できた。	立川武蔵・頼富 本宏	20頁
(著書) 5 『新国訳大蔵経』イン ド撰述部 密教部4「一 字頂輪王経」	共著	平成16年3月	大蔵出版	胎藏系の図像資料に大きな影響を与えたとされる不空訳出の『菩提場所説一字頂輪王経』(5巻)の国訳をした。	松長有慶・頼富 本宏・乾仁志・ 奥山直司・今井 淨圓・高田良 海・北尾隆心	143頁
(著書) ⑥ 『マンダラの諸相と文 化』上—金剛界の巻 頼富本宏博士還暦記念 論文集「ジャワ島出土 の密教尊像の特徴」	共著	平成17年11月	法蔵館	ジャワ島を中心に出土した金剛界曼荼羅に代表される曼荼羅尊像群以外の集合体を形成する密教尊像群に関して論じた。密教図像学に基づき、これらの尊像を文献資料と照合した結果、各尊像の像容表現は、各文献資料と極めてよく一致しており、インド密教の強い影響が確認できた。これらの貴重な密教集合尊に関する考察はこれまで行われておらず、ジャワ島に流布した密教の性格を知る大きな手がかりとなった。	頼富本宏	17頁
(著書) ⑦ 『アジア仏教美術論集 東南アジア』「インド ネシアにおける密教の 展開」	共著	平成31年2月	中央公論美術 出版	仏教流伝において海洋交易路の要所であるインドネシアに流布した密教の性格を現地より出土した遺品や文献資料から分析した。	責任編集肥塚隆	33頁

(著書) ⑧ 『海洋交易路における 仏教流伝形態の研究』 平成29年度～31年度科 学研究費補助金(基盤 研究B) 研究成果報告書 {インドネシア出土の 金剛薩埵の図像学的研 究}	共著	令和3年3月	高野山大学	平成29年度～31年度科学研究費補助金	松長有慶・内藤 栄・加納和雄・ 櫻木潤・那須真 裕美・ Dr. Noerhadi・ Bambang	12頁
--	----	--------	-------	---------------------	--	-----

教育研究業績書

氏名 松長恵史

著書, 学術論文等の名	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所, 発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当 頁数
(論文) 1 「インドネシアの初期 仏教—漢訳資料を中心 として—」		平成3年3月	『密教学報』 30号 (査読有)	インドネシアジャワ島およびスマトラ島へ流 布した仏教の性格を7世紀中頃から9世紀初期 に限り、中国歴史資料や漢訳経典などから考 察した。これらの考察により、東南アジア地 域における仏教の流布形態が明確になり、同 地域で後に盛隆する密教の性格の解明の大き な手がかりとなった。		9頁
(論文) 2 『インドネシアの密 教』		平成3年3月	修士論文	歴史資料の考察をはじめ、現地調査し入手し た図像資料を中心とする諸資料に基づき、イン ドネシアに流布した密教の流布形態や性格 について主として図像学の立場から考察し た。		
(論文) 3 「チャンディ・ムン ドゥーの八大菩薩」		平成3年3月	『密教文化』 174号 (査読有)	ジャワ島に現存する八大菩薩の遺品について の図像学的考察。インドおよびその周辺地域 に現存する八大菩薩の遺品の特徴や儀軌に説 かれる八大菩薩の像容の特徴を整理しインド ネシアの八大菩薩の遺品と比較考察し、イン ドネシアの八大菩薩の性格を考察した。この 考察により、胎蔵系曼荼羅の主要な構成要素 である八大菩薩を手がかりとし、胎蔵系曼荼 羅の研究を一步進めることが出来た。		35頁
(論文) 4 「光背五仏について」		平成5年1月	『高野山大学 密教文化研究 所紀要』6号 (査読有)	インドネシアに流布した密教の源流とも言え るインド東北部のパラ朝期の遺品に見られ る光背に施された五仏の特徴・配列を図像資 料を基に、整理考察した。この考察は密教文 化研究所のバングラディッシュ現地調査で得 られた資料からの考察である。これまで、仏 像の光背に施された仏像に関する研究はなく、 密教教理の解明に大きく寄与できた。		20頁
(論文) 5 「九分割配置の八大菩 薩 --エローラ石窟を 中心として--」		平成5年12月	『印仏研』 42-1号 (査読有)	オリッサ地区と同様にインドにおいて八大菩 薩の遺品が多数現存している西インドのエ ローラ石窟に見られる八大菩薩の遺品の特徴 について考察した。エローラ石窟に現存する 八大菩薩の遺品は、密教経典、儀軌の記述に 符合する部分も多く、八大菩薩の研究を大き く前進させた考察である。		3頁
(論文) 6 「インドネシアの金剛 界曼荼羅—ガンジク 出土のブロンズ像—」		平成6年12月	『密教図像』 13号(査読有)	ジャワ島東部から出土した金剛界曼荼羅を構 成する青銅像群に関する図像学的考察。金剛 界曼荼羅を説く諸経典儀軌の像容記述を整 理・分類し、これらの青銅像群の特徴と比較 考察した。また、ジャワ島現存の金剛界曼荼 羅の性格や鑄造年代について考察した。これ まで、このようなまとまった形での青銅製の 曼荼羅尊像群が発表されたことはなく、大き な研究成果である。		22頁

教育研究業績書

氏名 松長恵史

著書、学術論文等の名	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当 頁数
(論文) 7 「『サマーヨーガタントラ』の金剛薩埵族の曼荼羅 ―中部ジャワスロチヨロ出土の青銅像―」		平成8年10月	『密教図像』 15号(査読有)	新出資料であるジャワ島中部で出土した青銅像群の像容の特徴を整理し、『サマーヨーガタントラ』に関する注釈書・儀軌に説かれる像容記述の特徴と比較考察し、それらの青銅像群が「金剛薩埵族」の曼荼羅を構成することを指摘した。このような「母タントラ」に属する曼荼羅尊像も密教の流布したいかなる地域にも発見されておらず、図像学の領域において多大な成果を残すことが出来た。		14頁
(論文) 8 「Some bronze statues of mandala excavated from Java」		平成10年3月	『高野山大学 大学院紀要』2 号 (査 読有)	ジャワ島より出土した金剛界曼荼羅および『サマーヨーガタントラ』の金剛薩埵族の曼荼羅を構成する青銅像群の研究を国際的な学術成果の公表を目的として英文で執筆した。当論文は海外の関係部門において高く評価された。		51頁
(論文) 9 「不動明王辞典 経典編」		平成12年11月	『大法輪』平 成12年11月号	不動明王の図像表現を示す中心的な経軌である『底哩三昧耶経』、『不動使者軌』、『不動尊立印軌』の記述を精査し、経軌に説かれる不動明王の展開について述べた。この考察により、『底哩三昧耶経』と『大日経疏』との密接な関係も明らかになった。		5頁
(論文) 10 「インドネシアの密教は日本密教とつながる」		平成17年11月	『春秋』473号	主たる研究目的として「インドを源泉とする密教の流布形態の考察と日本密教への影響」を進めてきた中で、金剛頂経系の密教と胎蔵系密教の要素が共に確認できるジャワ島を中心とする密教遺跡、遺品から考察できる密教の性格が、空海が日本に請来した密教と極めて高い類似性を示すことを論じた。		4頁
(論文) 11 『密教文化』「空海著作における「名」の意義について」		平成26年3月	『密教文化』 232号 (査読有)	空海の言語思想を考察する上で、著作中に数多くの説かれる声、字、実相等の語句と共に使われることの多い「名」の記述に着目し、『声字実相義』および『文鏡秘府論』に説かれる名の意義に関して考察した。「聖なるもの」を如何に伝えるかに関して、「名」が果たす役割を『大日経』の記述を再確認することから、空海の有していた言語観について論じた。		17頁
(論文) 12 『密教図像』「ジャワ島出土の密教尊像の再考察」		平成27年12月発行予定	『密教図像』 34号 (査読有)	インドネシアジャワ島で出土した新出の四面大日如来を中心に考察した。また、以前言及した東部ジャワのガンジユクより出土した金剛界立体曼荼羅の四方に配される4つのシンボルに関して考察を加え、そこに示される四波羅蜜の体系を文献資料より明らかにした。		14頁

※名称の欄に「著書」「学術論文」「その他(含.学会発表)」の項目名を記して、項目別に列記してください。

著書、学術論文等の名	単著 共著	発行又は 発表の年	発行所、発表 雑誌又は発表	概 要	編者・著者名 (共著の場合の)	該当 頁数
(論文) 13 「スマトラ島の仏教遺 跡 ---ムアラジャンビ 遺跡群の現状報告」		平成28年2月	『高野山大学 論叢』第51 巻 (査読有)	インドネシアスマトラ島中南部に現存するム アラジャンビ遺跡群の現状報告		19頁
(論文) 14 「空海の言語観」		平成28年3月	『印度学仏教 学研究』第六 十四巻第二号	『大日経』『大日経疏』に記される言語に関 する記述を取り上げ、空海著作における言語 観を考察した。		6頁
(論文) 15 「巻中・第四唯蘊無我 心」『『秘蔵寶鑰』の 訳注研究』		平成29年12月	『高野山大学 密教研究所紀 要』別冊	『秘蔵寶鑰』の巻中・第四唯蘊無我心の訳注 研究		23頁
(論文) 16 「スマトラ島、ジャワ 島における仏教遺跡の 現状」		平成30年2月	『高野山大学 論叢』第53巻 (査読有)	インドネシアスマトラ島南部に現存するプミ アユ遺跡群とジャワ島西部のバトゥジャヤ遺 跡群の現状報告		14頁
(論文) 17 「海洋交易路における 密教の流伝-ジャワ島か らバリ島へ-」		平成30年3月	『高野山大学 図書館紀要』 第2号	ジャワ島で信仰された密教の性格の解明と、 10世紀以降にジャワ密教が流布したバリ島に おいて現在も信仰されているヒンドゥーダル マとジャワ密教との関係性について論じた。		22頁
(論文) 18 「『声字実相義』の訳 注研究」		令和2年3月	『高野山大学 密教文化研究 所紀要』別冊	空海著作『三部書』の一つである『声字実相 義』の「序説」から「十界の言語」までの用 語釈、現代表現を試みた。		30頁
(論文) 19 「インドネシア出土の 金剛薩埵の図像学的特 徴」		令和2年3月	『密教文化』 第号 (査読有)	インドネシアで出土した金剛薩埵の図像学的 特徴をオランダに収蔵されている作例も含め 網羅的に考察し、インドに現存する金剛薩埵 の像容表現と比較しその特徴を指摘した。		16頁
(論文) 20 「海洋交易路における 密教の流伝」		令和2年8月	『日本佛教学 會年報』第85 号 (査読有)	金剛頂経系密教の海洋交易路における流伝形 態を現地より出土した遺品・文献資料より考 察を加えた。また、現地に残された遺跡も考 察も対象に加え、インドネシアに流布した密 教を網羅的に分析した。		26頁